大阪教育大学　国際センター発行「オーバー・ザ・レインボー」　2016年2月発行

http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/index.html

OVER the RAINBOW

巻頭言

大阪教育大学　教養学科長　安部 文司

『あなたはあなたの国のアンバサダー』

vol.18

TOPICS

■留学フェア（台湾、韓国、ベトナム）
■第6回国際センターシンポジウム
■留学生後援会奨学金贈呈式
■地域の国際交流団体による交流活動
ホストファミリープログラム
門松づくり体験
留学生講演「異文化の暮らしを学習しよう」
ぶどう狩り体験
■日本文化研修
秋季日本文化研修（和歌山）
■平成27年度後期修了留学生メッセージ
■留学生コラム
■国際センターの活動
ドイツ文化体験研修
アメリカ語学研修
SICEP（School Internship and Cultural Exchange Program）
留学生後援会のお知らせ

写真：平成27年11月　秋季日本文化研修（和歌山県）にて

『あなたはあなたの国のアンバサダー』

教養学科長　安部　文司

もう10年以上前になります。私の大学の後輩（女性です）が、私がかつてアメリカで留学していた大学と同じ大学に留学することになり、私に話を聞きに来ました。帰り際、彼女が「父に、『海外に行ったらおまえは日本人の代表としてみられる。だからそのつもりで振る舞いなさい』と言われました」と言いました。彼女のお父さんは、海外勤務の長いビジネスマンだったそうです。

私はそれまで彼女のお父さんのような考え方が嫌いでした。世界のどこに行こうと私は私個人であって、日本の代表なんかではない、と。しかし、自分の留学生時代をふりかえればたしかに彼女のお父さんのおっしゃった通りでした。私の言動は、それがどのようなものであれ日本人の典型として受け取られていました。マーチン・ルーサー・キングの「私には夢がある」の演説にあるように、本来はある人の言動はその個人のものとして、その個性のみで判断されるのが望ましいでしょう。しかし、現実の世界が国家に分かれ、国を超えた人の移動が自由ではない中、ある国から来た人の言動がその国の人々の典型や代表として受け取られるのは、まだいたしかたないところがあります。

しかしそれは悪いことばかりではありません。自分は自分の出身国の代表だと自覚して振る舞うことで、自分の言動を意識するようになります。意識することで自国の国民性といわれるものについて洞察するきっかけになります。また、自分の言動を相手に理解してもらうときに、よりわかりやすくするために、いわば文化の翻訳を自覚的に行なうようになります。そして出身国の代表として、出身国に恥ずかしくない振る舞いをしようと思うはずです。

恥ずかしくない振る舞いというのは、かならずしも相手国の流儀に合わせることを意味するわけではありません。万延元年（1860年）に日本から日米修好通商条約の批准書交換のためアメリカに派遣された使節団は、その立ち居振る舞いが立派だとして賞賛されましたが、それは彼らがアメリカ流のマナーを身につけたからではありません。日本の作法に則って礼儀を示したことが、アメリカ人にも立派な立ち居振る舞いだと理解されたからでした。

２、３年前、本学の提携校であるアメリカのノースカロライナ大学ウィルミントン校（UNCW）に語学研修の引率で行ったとき、学生に配られたパンフレットにこうありました。「みなさんは、あなたたちの国から派遣されたアンバサダー（大使）です」。その通りです。留学生のみなさんは、一人ひとりがみなさんの国から日本へ派遣された大使です。どうぞその自覚を持ってください。

大使のみなさん、ようこそ大阪教育大学へ。

平成27年度　留学フェア　～台湾・韓国・ベトナム～

大阪教育大学国際センターでは幅広い国から留学生を受入れるため、様々な国で開催されている日本学生支援機構（JASSO）主催の日本留学フェアに毎年参加しています。今年度は台湾、韓国、ベトナムの3ヶ国で行われたフェアに参加しました。

7月に行われた台湾、9月に行われた韓国での留学フェアでは、日本への留学を希望するたくさんの学生が本学ブースを訪れ、それぞれ熱心に説明者の話に耳を傾けていました。

さらに、10月31日、11月1日にはベトナムのハノイ・ホーチミンで行われた留学フェアにも参加しました。ベトナムは近年著しい経済成長を続けており、多くの日系企業が進出しています。それに伴い、日本留学への需要も高まっており、それを証明するように留学フェアはたくさんの来場者で賑わいました。両日とも来場者が1,400名を超える盛況ぶりで、本学のブースにもたくさんの参加者が訪れ、教職員の話に熱心に聞き入っていました。

台　湾

韓　国

ベトナム

本学ブース訪問者数

台湾	韓国	ベトナム
7月18日 高雄会場…16名	9月12日 釜山会場…28名	10月31日 ハノイ会場…46名
7月19日 台北会場…28名	9月13日 ソウル会場…62名	11月 1日 ホーチミン会場…41名

第6回　大阪教育大学国際センターシンポジウム

「CLIL授業創りと教師の授業力 ―フィンランド（EU）の実践例から―」

今年は10月25日（日）に「国大協フェスタ」の一環として、天王寺キャンパス・ミレニアムホールにて、本学教職大学院の柏木賀津子教授の協力を得て開催しました。

近年、ヨーロッパを中心に注目されているCLIL（Content and Language Integrated Learning 内容言語統合型学習）は、理科や社会といった教科や異文化理解などのトピックを「外国語（英語）」を用いて学ぶ授業方法で、英語の実践力を伸ばす指導・学習法です。本学第二部と大学院実践学校教育専攻で実施している北欧教育実習では、この授業方法に取り組んでいます。

同シンポジウムは、小中学校の現職教員や教員を目指す学生、大学教員、英会話学校関係者など英語教育に関心をもつ人々、およそ90名が参加しました。

栗林澄夫学長のあいさつの後、第一部ではCLIL研究の第一人者であるタルヤ・ニクラ教授（フィンランド・ユバスキュラ大学）が、フィンランドにおけるCLIL発展の経緯やその効果と課題について講演しました。続いてのクリスティーナ・スキナリ教諭（フィンランド・コルテポーヤ小学校）が、自らが実践するCLILの授業を、博士課程で研究した成果を基礎に「教師と生徒の役割の変化」に着目して紹介しました。

第二部では、日本におけるCLILをテーマに研究発表が行われました。柏木賀津子教授による「小学校英語におけるCLIL」に関する発表に続き、本学大学院生の岩本哲也氏と森下祐美子氏が、北欧教育実習でのCLIL授業の様子を紹介しました。次に宇都宮大学の山野有紀講師が、日本の小学校外国語活動におけるCLIL実践の可能性について提案しました。最後に、奈良教育大学の佐藤臨太郎教授と同大大学院生の泉谷忠至氏が「高校英語授業における日本の教師のL1-L2使用―教師の信条と実践のギャップ」と題して発表を行いました。

質疑応答の際には、フロアーからのコメントや質問をきっかけに、パネリストたちと活発なディスカッションが行われ、CLILの日本の学校における導入・活用に大きな可能性を示しつつ、幕を閉じました。

アンケートでは、「CLILの実践例がたくさん紹介されていて勉強になった。大阪まで来た甲斐があった」「CLILに関して理解が深まったので、次回はより実践的な研修会を開いてほしい」「CLIL先進国フィンランドでも常に検証を続けている姿勢が印象的だった」等の感想が寄せられました。

大阪教育大学留学生後援会

留学生に奨学金を授与

12月2日（水）に大阪教育大学留学生後援会奨学金等贈呈式を行い、私費外国人留学生に奨学金を授与しました。

留学生後援会は、留学生への経済的支援、地域との国際交流の促進を目的として、地域の支援団体及び本学教職員等により構成された組織で、平成15年度から毎年、留学生に対し奨学金を授与しています。今年度は、寄付団体名を冠した奨学金5人、留学生後援会7人、大阪柏原ロータリークラブ教育支援金3人の計15人に奨学金を授与しました。

留学生代表として挨拶した大学院教育学研究科総合基礎科学2回生の甘耿（ガンゲン）さん（中国）は「研究（植物タバコの染色体やDNAに関する遺伝学的な研究）が忙しい中、親からの仕送りがないためアルバイトをする時間をなかなか減らすことができませんでした。奨学金をいただくことにより、アルバイトの時間を減らし、もっと研究に集中することができるようになります。卒業するまでに研究できるのは残りわずか一ヶ月となり、このような肝心な時期に奨学金がいただけて大変助かりました。卒業後は日本で就職します。今受け取った恩恵を忘れず社会貢献をし、日本と中国の架け橋になれるよう頑張りたいと思います。」とお礼の言葉を述べました。

留学生後援会では、引き続きこの制度の拡充を目指し支援の和を広げていくことにしています。

地域の国際交流団体による交流活動

ホストファミリープログラム　グローバル香芝

11月14日（土）、いつも本学の留学生のために様々なイベントを企画、開催してくださる「グローバル香芝」の主催で、恒例の「秋季ホストファミリープログラム」が実施されました。この日は渡日したばかりの留学生26名が参加し、誰もが初めての「日本の家庭」との出会いに胸をときめかせていました。

今回は26名という大人数だったため、学生たちは自己紹介（名前、出身国と都市）を簡単にすませ、その後、みなが「日本で行ってみたいところはどこですか」という質問に答えました。アジア出身、しかも暖かいところから来ている学生が多いせいか、「北海道」がダントツの一番人気で、「ぜひ雪まつりに行ってみたい！」という声も聞かれました。

続いて、ホストファミリーが自己紹介をし、受け入れ学生の名前を呼ぶと、用意された飲みものとお菓子をつまみながら、しばらくおしゃべりを楽しみました。そして、それぞれマッチングした家族のお宅へ招待され、子供たちと遊んだり、一緒に食事を作って食べたりと、充実した1日を過ごしました。

このプログラムは、日本の家庭を実体験できることから、留学生の間では非常に人気があります。そして、留学生にとっては帰国後も日本のすばらしい思い出のひとつとなっていて、訪問したファミリーとの間に長く交流が続く例も珍しいことではありません。

ホストファミリーの皆様、本当にありがとうございました。

異文化の暮らしを学習しよう　柏原市人権推進課

11月4日（水）、柏原市フローラルセンターで毎年実施されている講座「異文化の暮らしを学習しよう」において、本学の留学生ファム・ティートウンさんが講師として招かれ、出身国のベトナムについて紹介しました。ファムさんは、教養学科健康生活科学科の2回生です。また、同じベトナムからの留学生、教養学科情報科学1回生のレ・フンニンさんも応援に駆けつけ、多くの聴講者の前で、日本語で発表を行いました。

ファムさんの話は、ベトナムは多民族国家で、民族が54もあるなど、興味深いものでした。ベトナムは南北に長く、それぞれの地方によって、気候、文化も異なるということを上手な日本語で紹介しました。

ベトナムの紹介では、フォーなどの日本でも有名になってきた食べ物やアオザイのような民族衣装まで、動画を使って分かりやすく説明し、聴講者にもベトナムが近く感じられたようでした。

講演の最後には、ベトナムに関する質問が出ましたが、聴講者のベトナム青年との心温まる交流も紹介され、会場の拍手を誘っていました。

門松づくり体験　シニア自然大学校

12月16日（水）、シニア自然大学校の皆様主催により、今年度も恒例の「門松づくり」体験を開催していただきました。日本人でも門松を作ることが少なくなり、留学生にとっては貴重な体験です。

参加した留学生達のために立派な孟宗竹や南天、千両、万両、そしてメインとなる松などの材料が用意されました。日本の鋸を使うのは初めてなのか、留学生も最初は戸惑っていましたが、慣れると上手に孟宗竹を切って行きました。シニア自然大学校の皆様にやさしく手ほどきいただきながら、立派な門松を完成させました。また、飾りとして折り紙も習い、日本の文化に触れることのできた一日でした。この日参加した留学生は30名、シニア自然大学校の皆様は61名も見えられるなど、門松づくりは七夕の笹飾りとあわせて留学生に大人気の体験プログラムです。

普段はペンしか使わない留学生達ですが、こうしてペンを鋸に持ち替え、束の間のひとときを地域の皆様と交流し、自然に触れ合う素晴らしい機会を満喫していました。シニア自然大学校の皆様、ありがとうございました。

ふるさと柏原ぶどう狩りツアー　柏原市

毎年本学の留学生をご招待いただいている柏原市主催「ふるさと柏原ぶどう狩りツアー」に今年も参加させていただきました。参加した学生からは以下のような感想が寄せられました。ご招待いただいた柏原市様、本当にありがとうございました。

「随分前から柏原市のぶどうは有名だと聞いていたが、自分が柏原市に下宿しているのに一回も柏原のぶどうを食べた事がありません。今回のぶどう狩りや染色体験など様々なイベントを通して、自分の住んでいる地域の人々がどのような産業を営んでいるかが分かりました。また、地元の方々と交流できて、非常に有意義な1日を過ごせました。」（中国・学部留学生）

「自分にとってぶどう狩りに参加するのは初めてで、今回参加出来ることにすごくよかったと思います。そこにはただぶどうを食べるだけではなく、ぶどうの様々な種類も知り、日本人の皆さんとそこで行われるイベントなども一緒に楽しめることが出来ます。次回もチャンスがあれば、また参加したいと思っています。」（カンボジア・日本語・日本文化研修留学生）

秋季日本文化研修
和歌山方面

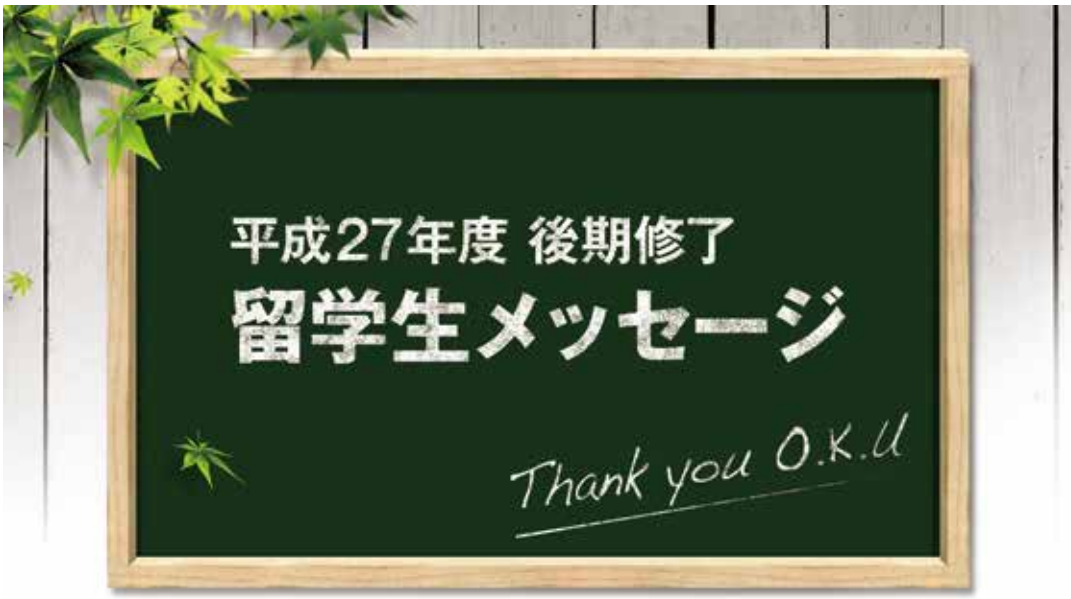
毎年恒例の秋季日本文化研修を、11月28日（土）に実施しました。留学生と日本人学生との交流を促進し、日本の地理や歴史、風土、文化を直に体験する機会として開催されている本研修には、毎年多くの学生が参加しており、今回の研修では、留学生・日本人学生72人と引率教職員5人が和歌山県の名所を見学しました。

最初に訪れた「紀州漆器伝統産業会館 うるわし館」では、会津漆器、越前漆器、山中漆器とともに日本の四大漆器のひとつに数えられる紀州漆器を見学し、伝統工芸である蒔絵を体験しました。下絵の描かれたお盆の中から好みのものを選び、人工漆を塗り、そこに金粉を散らして蒔絵を完成させます。同じ下絵のお盆を選んでも、人工漆の塗り方や、金粉の色の付け方が人により違うので、学生たちはお互いに自分の作品を見せ合いながら作業し、世界に一つだけの自分のお盆の完成をとても喜んでいました。

昼食には、観光漁港として有名な黒潮市場を訪れ、日本の海の幸に舌鼓を打ちました。

最後に、西国三十三所第２番札所の紀三井寺（紀三井山金剛宝寺護国院）を見学しました。21世紀になって建立された、日本最大の寄せ木造の十一面観音が有名ですが、山頂の古びた弁天堂も知る人ぞ知る紀三井寺の奥の院です。学生たちは食後の運動とばかりに本堂まで駆け上がり、ふもとの町から遠くに広がる海までが一望できる絶景を堪能していました。また、紀三井寺の縁結びの坂は、みかんで有名な紀伊国屋文左衛門の結縁の石段です。それにあやかり、学生たちは有田みかんを続々と購入し、バスの中に柑橘系の香りが充満しました。朝から盛りだくさんの行程を終えた学生たちは心地よい疲れと思い思いのお土産を手に、大阪への帰路につきました。

友人との交流を深めながら、日本の文化や風土を直に体験した学生たちはとても充実した顔つきで1日を送っていました。



氏名 YUDHA DIRGA PRAKASA CASAR NAGARA
出身 INDONESIA

THANK YOU ALL.

Japan's life was beautiful because of you. I will bring good memories back home.

My deepest respect to

Yanagimoto Sensei, Hasegawa先生
Kristin Anjas Imura-Sama,
Livia Akiko-San.

氏名 Anjas Karuniawan
出身 Indonesia

It's time to say "Good-bye". Our years have come to an end. We've made some cherished memories. We've watched each other learn and grow, and change from day to day. We hope that all the things we've done will help us along the way. So it's with happy memories we all go out the door with great hope and expectation for what next year holds in store.

氏名 クリスティン ミランダ フェランノ
出身 フィリピン

My stay in OKU had been a year of meeting new people, visiting interesting places, and learning new things - all of which enriched my brief stay in Japan. I'm grateful to have had this opportunity to experience things that widened my horizon. To everyone who made it possible, thank you very much.

氏名 リビア ゴンジム
出身 ブラジル

I will never forget: Climb the stairs "つかれた!!!", saying ながい今 to the guards, the さくら in front of my balcony. Seeing the いのしし, the 大学祭, and of course, learning 日本語. But most of all, the 友だち I got.

Thank you OKU for a wonderful year!

ありがとうございました!!!
Obrigada! リビア。

氏名 アデリーノ
出身 SAO tomé Principe

It was a great Experience. the words are powerless to express my profound gratitude So I only say: thank to all japanese.

氏名 トラン・リ・カ
出身 ベトナム

大教大にいた一年間は、各国の友だちとたくさん会って、日本のことをたくさん勉強して、とても大切な一年でした。また会えますように

氏名 カート
出身 オーストラリア

ALL IS FULL OF LOVE
ALL AROUND YOU

残った留学生
楽しんでね!
色々な経験 ありがとう

氏名 アリーン ライト
出身 オーストライア

氏名 ユン ソダン
出身 韓国

大教の皆さんありがとうございました。
今まで生きながら最も多くの素晴らしい友だちに会わせてくれた大教大にありがとうございます。
また、会いましょう!

氏名 ホアン ウェイ ミン
出身 台湾

この一年間、大教大へ来て本当によかった。親切な先生と係りおれに会って、違う国の友達ができた本当に楽しかった。私は絶対に忘れない!大変お世話になりました!ありがとうございます!

氏名 李靈珠 リン
出身 中国四川省成都市

留学の間に、様々な人たちと出会い、友達になった。身をもって、日本のすばらしい自然風景を体験した。日本の文化がより分かるようになった。大阪教育大学での留学生活は、自分の人生の中でかけがえのない宝物として保なしたい。

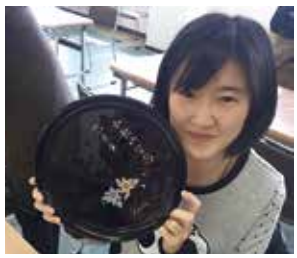
氏名 韓衛清
出身 中国

大教大での生活はとても楽しかったです!
ここに来て、他の国からの友達に出会って、先生たちに出会って、ほんとうによかった!
大教大のことが大好きで、きっと私のいい思い出になります!

氏名 陳怡萱
出身 台湾

ほんとに大教大来てよかったです。
みんなに出会えて、とても幸せ。まだ帰りたくない。
また会おうね~

Message From OKU International Students



キュウ エンリン
邱 灩淋（中国）
2010年4月学部入学／2014年4月大学院入学
教育学研究科総合基礎科学専攻
数理情報コース
指導教員：藤井 淳一 教授

2008年4月に来日し2年間日本語学校に通ってから、情報科学専攻として大阪教育大学に入学しました。大学卒業後に大学院に進学し、あっという間に卒業の時期だと考えたら寂しくなってきました。大教大での6年間の留学生活を振り返ると、良い思い出が沢山あります。大教大の教育を受けたからこそ、自分が成長できました。大教大に入って本当に良かったと強く思いました。

大学に入った時、専門授業が多くて大変でした。特に専門用語も多くて、意味が全くわからず、授業についていけなかったです。そして、学校のこと以外、生活面にも困っていました。ある時期には凄く落ち込んでしまいました。けれど、国際センターの先生に相談したら、凄く優しく丁寧にアドバイスをしてくれました。本当にありがとうございます。今でも、悩みことがあったら相談に乗ってくれるし、もちろん嬉しいことがあったら国際センターの先生方にシェアします。卒業後社会に出たら、人の話しを聞くことが大事だと教わりました。

国際センターの先生方は勉強のことをしっかりサポートしてくれて、学外の勉強にも色々支援してくれました。留学生のためのイベントや文化研修などの年間行事が沢山あります。色々なところに行って、日本文化を体験させてもらいました。日本語の勉強にもなります。貴重な経験だと思います。

学生時代に色々なことをチャレンジすれば、きっと自分の将来に役に立つ貴重な経験になると思います。今まで、留学生のための活動をいっぱい参加してきましたが、日本人と同様な活動も行ってきました。国際センターでの情報を通して、学外に大阪マラソンのボランティアとか、大阪観光局が関空でアンケート調査を行う行事などを経験しました。今年は、東日本大震災復興支援ボランティアとして、仙台まで行って、登米市南方中学校の皆さんに教育支援をさせて頂きました。2011年の大震災による教育の遅れのため、本学と京都教育大学の学生が夏休みの期間を利用して教育支援をしました。唯一の外国人として、日本の中学生と触れ合って日本の教科を教えた日々は忘れられません。初の先生体験で、教えながらも色々なことを学ぶことができました。

このように、大阪教育大学で、いろいろな経験を積み、身につけた知識やスキルを、社会に出て活かしたいと思います。大阪教育大学の先生や国際係の職員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんがいるからこそ、私たちは充実した留学生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

明日、またいい出会いを！大教大、ありがとうございます。

チョウ ソ
張 楚（中国）
2012年4月入学
教養学科文化研究専攻
日本・アジア言語文化コース
指導教員：石橋 紀俊 教授、佐藤 一好 教授

大学の四年間はあっという間でした。

入学式はまだ昨日のことのように思い出されます。それは日本へ来てちょうど一年、日本語がまだろくに聞き取れず、人としゃべるのも、人前で話すのも苦手な自分でした。どんな四年間が過ごせるのかに不安な自分でした。友達ができなかったらどうしようと心配な自分でした。

そして、そこからでした。授業は難しかったですが、クラスメートが教えてくれたり、録音して聞き直したりすることで乗り越えました。人前で話すことも、同じサークルのメンバーが励ましてくれたり、発表や司会などの練習を繰り返したりするうちに、好きになってきました。「友達ができないという不安は私にもあった。でも今は私達がいる。」と言ってくれた友達もできました。

こんなことを書こうとしている今の私には、たくさんたくさんの思い出が頭の中から浮かんできています。学べたことは、専門知識だけではなく、人との接し方、物事の考え方、それに世界の見方までも。なによりはたくさんの人と出会えました。時に厳しくなる親切な先生方、いつも世話になっていた先輩方、一緒に頑張れた同級生、一緒に異国での寂しさを暖かさに変えた留学生たち…こんなにたくさんの素敵な人と関わることができるなんて昔の自分には想像もつきませんでした。

人生での最高な四年間だと言ってもいいぐらいです。ありがとう、この四年間。ありがとう、大阪教育大学。

ゴ テイヨウ
呉 貞耀（中国）
2012年4月入学
教養学科人間科学専攻
指導教員：新崎 国広 准教授

私は大学受験の道があまり順調ではありませんでした。何回も失敗してしまいましたが、諦めずに頑張り続けて、大阪教育大学に合格しました。入学の時期でも、四年間を過ごした今でも、ずっと感謝の気持ちがいっぱいです。大教大に何か恩返ししないといけないという気持ちで今回の体験談執筆を引き受けました。今までの学生生活の経験は後輩に少しでも役に立てれば嬉しいと思っております。

四年間の学生生活を振り返って見ると、勉強や、サークルや、バイトなどのどれでも、全力で頑張っていました。一見ごく普通の大学生活しか過ごしてなかったですが、その中に自分独特の拘りがあります。それは学校内でも、学校外でも、周りの日本人と仲良くすることです。（意外と重要です。笑）留学生の方は今までの勉強は受験用の日本語がメインで、クラスメートも同じく外国籍の方が多かったはずです。だから、大学の先生の授業より周りの若者の省略語や、はやりの言葉や、ジョーク等のほうが難しいと思います。受験用の日本語からもっと日本人らしい日本語を習得できるように、積極的に日本の学生の活動にまじりこんだほうがいいと思います（無理やりでも）。そのうちに、言葉はもちろん、日本社会の人と人の付き合い方、マナー等が自然にわかるようになります。それは将来の就職活動にもきっと役に立つと思います。

最後に、入学したばかりの留学生のみんなさんにまだ早すぎる話ですが、就職活動のアドバイスです。まず、英語の大事さを意識したほうがいいです。もう一つ、早い段階で就職活動を始めたら、同世代の人より有利な立場になります。つまり、いろいろ試行錯誤を経て、自分なりの就職活動のスタイルが見つかりやすいということです。

国際センターの活動

国際センターでは、年間を通して海外の協定校との交流プログラムを実施しています。
ここではその一部をご紹介します。

ドイツ文化体験研修

「世界の人と「出会う」ということ」

ハヤシ　マ イ
林　真衣
学部3回生
教養学科芸術専攻
音楽コース

言葉が通じない海外に行くなんて怖すぎる。私は一度も外国に行かずに日本の中で生きていくんだ！と、大学一回生の頃までは本気でそう思っていました。しかし、専攻の音楽でドイツ語の歌を学ぶうちにドイツ語の美しい響きに触れ、次第に生のドイツ語に触れたいと思い、そういった想いから今回このプログラムに参加しました。

今回の短期研修で、私はあるポーランド人の女の子と出会いました。日本語はもちろん通じないし、英語も通じない中で、共通の言語はドイツ語だけでした。ドイツ語のレベルも同じくらいのその子と話すことは、自分にとってとてもいい経験でした。十分に言葉が話せなくても気持ちが伝わる。言いたいことがわかる。日本で日本語だけを使っていては気づくことの出来ない貴重な体験でした。

このプログラムでの一番大きな収穫は、たくさんの人との「出会い」です。参加者が世界中から来ていたことから、ドイツだけでなく、他の国の人ともたくさん出会うことが出来ました。自分の中で海外に対する思いが大きく変わったことも、この出会いのおかげだと思います。もっとたくさんの国の人と知り合いたい。世界中で実際に起こっていることについて、少しでも多く学びたい。上手に外国語が話せなくても、友達になることは出来ました。しかし、より深い考えを伝えたいときや、相手のことをもっと知りたいときには、「言葉」そのものを知っていないと理解し難いこともありました。これから先、日本は更にグローバル化に向けて進み、国際交流や外国語が必要になってくることと思います。その社会の中で、国際交流が出来る一つ一つの機会を逃さないためにも、もっと自分の語学力に磨きをかけ、そしてもっとたくさんの人と出会いたいと思いました。

最後に、語学研修を行うにあたって協力してくださった先生方や国際センターの皆様、友人、家族、すべての方々に、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

アメリカ語学研修

「５週間の語学研修を経て」

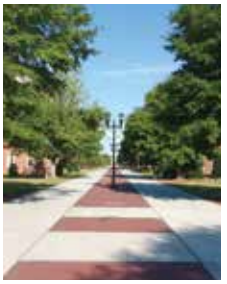
カワウチ　トモノリ
河内　智則
学部2回生
教員養成課程英語教育専攻
小学校コース

将来英語教員になるにあたって海外で英語を学んでみたい、アメリカの小学校を見学してみたい、そういった思いからこの語学研修に参加しました。私は初めて海外へ行きましたが、ウィルミントンでの生活は毎日が新鮮で、充実しており、いい思い出になりました。そんな数ある思い出の中でも、ここでは３つを紹介させていただきます。

まず、通学したUNCWについて話したいと思います。本校では英語のみ使用するという環境のもと、授業や課外活動が行われました。そのため次第に英語を話せるようになりました。課外活動では、ウィルミントンのダウンタウンなどを訪れ、現地の建物や人々、美しい風景に触れることができました。また、滞在中お世話をしてくれるカンバセーション・パートナー（UNCWの学生）との出会いもありました。私はよくカンバセーションパートナーとお昼ご飯を一緒に食べたり、週末に映画や水族館へ行ったりしました。彼は不安でいっぱいな私にとって頼れる存在であると同時にかけがえのない友人でした。

次に、ホームステイファミリーについてお話します。現地での生活はほとんどがホームステイでした。心優しいホストファミリーとの暮らしはたくさんの人々との出会い、様々な体験にあふれていました。いつもおいしい食事を用意してもらい、メキシコ料理をはじめいろんな国の料理をいただきました。ホストマザーの親戚とビーチへ行ったり、彼女の友人と花火を見たり、本当に楽しかったです。すてきなホストファミリーのもとで充実した日々を過ごしました。

最後に、小学校見学についてお話します。アメリカの小学校を見学できるという経験は大変貴重なものでした。中でも、頭のいい児童たちで構成されるAEDという特別クラス、学校安全には衝撃を受けました。時間をお借りして行った忍者について紹介する授業も大成功を収め、自信がつきました。



わずか５週間の滞在でしたが、大きな自信と学習意欲を得ることができました。これからさらに英語について学び、在学中にまた海外に滞在してみたいです。

2015 School Internship and Cultural Exchange Program（SICEP）

7月６日から7月17日まで「School Internship and Cultural Exchange Program（SICEP）」という海外の協定校の学生のための短期受入れプログラムを実施しました。このプログラムは、附属平野小学校・中学校での学校観察、岸和田市の小学校での研究授業、講義、クラブ訪問やホームステイを含む文化研修が組み込まれており、全て英語で行われました。今回は香港にある香港教育学院より２名、アメリカ・ノースカロライナ州にあるノースカロライナ州立大学ウィルミントン校（UNCW）から５名、合計７名が参加し、チューターとして通訳などの支援を担当した日本人学生とも交流を深め、約２週間の研修を終えました。

「言語学研究法」「英語教育学特論」「外国語コミュニケーション」などの講義で日本の教育や英語教育について学び、２週目の研究授業に備えました。また、「心理学特殊実験演習」では、日本人学生が英語で日本の教育制度や学校文化に関する発表をしたあと、アメリカ・香港との教育制度との違いについてディスカッションを行いました。研修に参加した学生は、「日本の教育は、小学校の時から皆で協力して学ぶ姿勢が身についている」「児童・生徒や大学生は一生懸命に勉強やクラブ活動で努力している」と感想を述べていました。

なお、本プログラムは日本学生支援機構の留学生交流支援制度（協定受入　短期研修・研究型）に採択され、研修参加者全員に奨学金が支給されました。

会員募集中　留学生後援会入会のご案内

留学生後援会では奨学金支給、国際交流行事支援などを行っております。
ご賛同くださる皆さまは、下記によりぜひご加入下さい。

会費・納入方法

一般会員　学内職員

●一口1,000円/月、または一括・給与から天引き

特別会員　学外支援者

●振込…任意の金額を下記いずれか宛てにお振込下さい

ゆうちょ銀行ぱるる
記号：14120　番号：96618321
名義：大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

三菱東京UFJ銀行　藤井寺支店
普通預金　口座番号：5210211
名義：大阪教育大学留学生後援会
（オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ）

●現金納入

連絡先／大阪教育大学留学生後援会　森下・林　TEL：072-978-3351,3300　E-mail：ryugaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

OVER the RAINBOW vol.18
年２回発行　第18号　平成２８年２月15日（月）発行
編集・発行／大阪教育大学国際センター
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698番1 http://osaka-kyoiku.ac.jp/ic/index.html
連絡先／TEL:072-978-3300 FAX:072-978-3348
E-mail:isc@cc.osaka-kyoiku.ac.jp